

石油ストーブに起因する火災事例

火災概要

防火構造2階建店舗付住宅の居室内で、石油ストーブが焼損した「ぼや」の建物火災です。家人が濡れタオル等を石油ストーブに被せて初期消火に成功しています。



焼損した石油ストーブ



カートリッジタンクとキャップの状況

原因概要

本件火災の出火原因は、給油のため石油ストーブを消火して、カートリッジタンクに給油してストーブに収納したところ、キャップ(蓋)が完全に締め付けられていなかったため、カートリッジタンクから灯油がオーバーフローし、消火したつもりだった石油ストーブの燃焼筒の火が完全に消えておらず(芯にタオルなどが付着して消火後もしばらくは残炎している場合がある)、オーバーフローした灯油のベーパー(蒸気)がその火に引火したものです。

類似火災の防止対策

石油ストーブ関係火災事例

- 石油ストーブの火を消さずに灯油缶から直接給油した際、灯油をこぼして火災に至った。
- 石油ストーブ(カートリッジタンク式)に、誤ってガソリンを給油したため火災に至った。
- 石油ストーブの上に洗濯物を干していたところ、振動、接触、ストーブの上昇気流などで洗濯物がストーブの上に落下し火災に至った。

本事例のような火災を防ぐためには、石油ストーブに給油する際は必ず完全に消火した事を確認することと、カートリッジ式のタンクの場合はキャップを閉めた際、漏れ等が無い事を確かめてから収納するようにしてください。

また、芯にタオルが付着し芯が完全に降りない場合は、取扱説明書に従って芯のクリーニングをしてください。

・・・火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。・・・